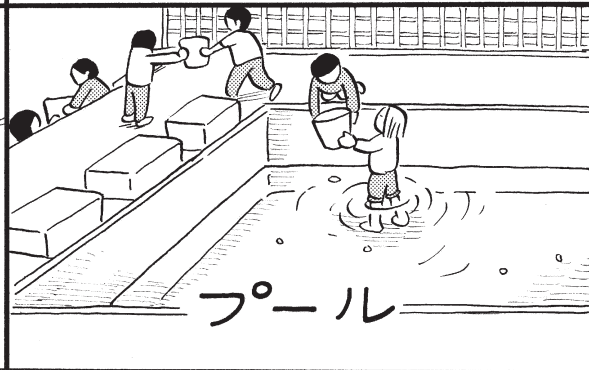
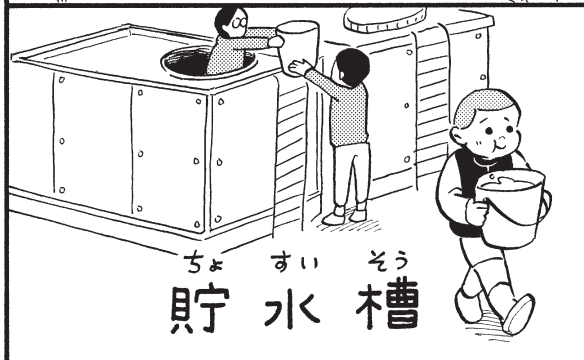
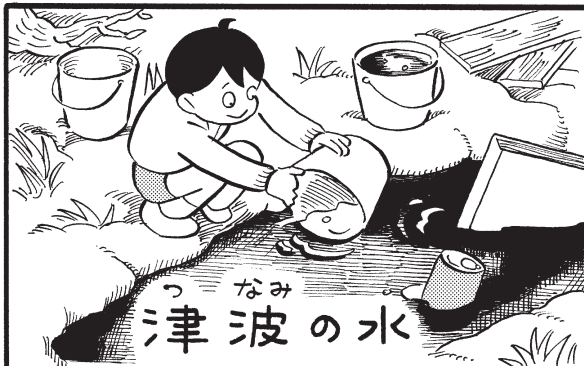




ひ さいせい かつ くふう
【被災生活の工夫】

ば しょ みず と
いろいろな場所から水を取る

- ▶ みず おも い じょう ひつよう
水は思っている以上にたくさん必要
- ▶ みず と ば しょ し
水が取れる場所を知っておく
- ▶ ふだんから みず
ふだんから水をためておく



いろいろな場所から水を取る

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① みなとくんは手を洗おうと手洗い場へ行きました。でも、「水が出ない」と知りました。
- ② そこで、トイレへ行ってみたところ、「こっちも出ない」。トイレの水も流れないことがわかりました。
- ③ みなとくんが持っているのは、冷蔵庫にあるペットボトルの水だけです。その時、みなとくんは「○○○○○」

▶ セリフの例 (気持ち)

「これだけしかない」
「この水で何日もつかなあ」

▶ 発問例

- ・ みなとくんのようにならないためには、どうすればいいですか？
- ・ 水道が止まった時、水をどこから手に入れますか？
- ・ 日頃から、どんなことに気をつけたらいいですか？

■ 教訓シートの説明



▶ 水は思っている以上にたくさん必要

- ・ 地震が起こると、水道が止まってしまうことがよくあります。
- ・ ふだんは気づきませんが、私たちが生活を送る上では、飲む、顔を洗う、トイレを流す、食器を洗う、洗濯する、お風呂に入るなど、思っている以上にたくさんの水を使っています。

▶ 水が取れる場所を知っておく

- ・ 水道が止まっている時は、いろいろな場所にある水を活用しなければなりません。
- ・ 沢や山の湧水や井戸の水は、そのまま、あるいは沸騰させて飲むことができます。
- ・ 飲み水には適していなくても、トイレを流すために、プール、貯水槽、お風呂などの水が使えます。

▶ ふだんから水をためておく

- ・ 日頃から災害に備えて、飲み水や生活に必要な水を確保する方法を考えておくことが大切です。
- ・ お風呂の水や雨水をためておくなど、簡単にできる方法もあります。

■ 東日本大震災の教訓

水を確保することが、とてもたいへんだったことを知る話がたくさんありました。「毎朝 4 時ごろに起き、木をかき分けて山に入り、沢の水を汲みに行くことが日課で、まるでサバイバル生活だった」「井戸も電気がないとモーターが回らなくて、バケツに石を入れて重しにして原始的に汲んだ」。さらに、津波の水もバケツなどに取っにおいて、トイレを流すのに使ったそうです。